

社会福祉学部開設60周年  
スペシャル対談



60周年を機に進める、  
社会福祉学部改革。

日本福祉大学学長  
児玉 善郎

Yoshiro Kodama

1985年、神戸大学大学院工学研究科環境計画学専攻修了。博士(工学)。民間の都市計画事務所・株式会社計画技術研究所研究員、神戸大学工学部技官、産業技術短期大学助教授を経て、2000年日本福祉大学社会福祉学部へ赴任。大学院社会福祉学研究科長、社会福祉学部長補佐、社会福祉学部長、執行役員(高大接続)を経て、2017年4月より学長を務める。

社会福祉学部学部長  
小松 理佐子

Risako Komatsu

1987年、日本社会事業大学社会福祉学部卒業。1997年3月東洋大学大学院社会学研究科単位取得満期退学。2011年5月、東洋大学博士(社会福祉学)。社会福祉法人東京都民生児童委員連合会専任、中部学院大学人間福祉学部講師、中部学院大学人間福祉学部助教授を経て、2017年4月より日本福祉大学社会福祉学部長に就任。

1957年4月に、四年制大学初の社会福祉学部として誕生した日本福祉大学社会福祉学部。2017年に60周年を迎え、これまでに50,000名もの卒業生を輩出してきました。地域や社会からの期待がより一層高まる中、これからの社会福祉学部はどうあるべきか。児玉学長と小松学部長のお二人に、現在進めている社会福祉学部の改革の取り組みや今後の展望について語っていただきました。



学長 Special Talk

社会福祉学部  
学部長

**児玉** 私は60周年を迎えた2017年の4月に学長に就任しました。学長になってから学園創立者である鈴木修学先生の建学の精神に触れる機会がより一層多くなり、60年経った今も、「理念は生きている」ことをひしひしと感じています。その理念は脈々と受け継がれており、これこそが本学の社会福祉学部の強みではないかと思えます。さらに、最も歴史の長い社会福祉学部として忘れてはならないのが卒業生とのつながりです。全国各地また国外で活躍されている同窓生の皆さんが大学の教育に力を貸してくれており、その方々に支えられて今があると思えます。

**小松** 確かに同窓生のネットワークは本学の強みですね。どの福祉現場に行っても卒業生がいますから(笑)。もう一つのネットワークとして地域の方々、知多半島の福祉に関わる組織・団体、そして厚生労働省も含めたあらゆる行政機関との強固な結びつきがあります。これも本学ならではのですね。

**児玉** そうですね。多方面からさまざまな声をいただいているのですが、本学は全国の福祉系大学をリードする存在として、多大な期待を寄せられているように感じます。創立当時は数少なかった福祉系大学ですが、年々、数が増加しています。しかしその

一方で、福祉系大学を卒業しても福祉の現場を就職先には選ばない学生が増えているのも事実です。そこを変えていくのが私たちの今後の役割だと感じています。

**小松** 私は学長と同時期に学部長に就任しましたが、他大学の社会福祉学部の教員や職員の方から「日本福祉大学が頑張ってくれないと困る」と激励の言葉をよくいただきます。時代が変化し、社会福祉業界が認められにくい世の中で、本学がそれを変える力を持っていると期待されています。

**児玉** その通りだと思います。これまでも時代の要請に応える形で、教育の質の向上に取り組んできましたが、60周年を節目として、社会福祉学部の改革を行いました。その一例が2017年4月入学生から導入した4専修制です。これまで1年次に基礎的な学びや将来像を明確にし、2年次から4つのコースに分かれて専門分野を重点的に学ぶ体制でしたが、2017年度の新入生は、

行政・子ども・医療・人間福祉の4専修の中から選んで入学するカタチになりました。

**小松** 専修制によって、自分が将来何をしたいか、そのために何を学ぶべきか、入学時にすでに明確になっていることが大きな変化です。同じく2017年に導入したスカラシップ入学試験も特徴的です。

**児玉** スカラシップは特別奨学生入試で、4年間の学費と入学金が半額になり、入学後には特別教育プログラムが設けられています。2017年度にスカラシップで入学した学生は24名いますが、その様子はいかがですか？

**小松** スカラシップの学生が授業中に積極的に発言する姿を見て、周囲の学生も「私ももっと発言しよう」と意欲向上につながっているようです。ですから今の1年生の授業は良い緊張感があって、活発な雰囲気ができ上がっています。少人数のゼミナールでもスカラシップの学生がゼミ長になっている例が多いですから。スカラシップの学生に影響を受け、他の学生、他の学部、また大学全体の雰囲気も変わっていくことを期待しています。

**児玉** 学部長の発案により、スカラシップの24名の学生との朝食ミーティングを行っていますよね。生協で朝食をとりながら、小松学部長と学生がいろいろ語り合う場になっている。そうした取り組みが学生の積極的な姿勢を生み出しているのだと思います。

**小松** 専修制とスカラシップのほかに、今後始まるものとして「在学ギャップイヤー」という養成プログラムや「地域マネジメント実践」という新科目があります。どちらも学外に出て実際に体験、活動してみることで実践力を身につけることが狙い。学部改革に共通するのは、学生が目的意識を持ち、目的に向かって必要な学びを積み重ねていく上で多くの選択肢を用意したことです。

**児玉** これまでも「地域研究プロジェクト」や「サービスマーケティング」など同じような取り組みはありましたが、他大学よりも先行して導入してきた

実績があります。それらを強化し、主体的に学べるプログラムを幅広く設けたことが改革の最大のポイントです。

**小松** 本学の建学の精神は、「今の社会にないけれども必要なものをつくっていくこと」。60年前、日本福祉大学の社会福祉学部ができた時には世の中に社会福祉学部がなかったわけです。しかし、そういった専門的な人材が必要だという創立者の発想があって本学が生まれている。社会が大きく変化し、社会福祉の人材が活躍する場が変わってきている中で、社会福祉学部として現代社会に必要なスキルを身につけ、学生を送り出していくことが私たちの使命ではないでしょうか。

**児玉** 今は福祉に対する逆風のようなものもありますが、そういう中で伝統ある本学が福祉の重要性や魅力、社会の中での役割を改めて強く発信していくことが求められています。そのために、本学の強みである全国各地にいる多くの同窓生とのネットワークを活かしたいと思います。つながりの一つとして、今後は保護者の方との交流も深めていきたいと思っています。社会福祉学部の保護者の皆さんは学生以上に熱心な方が多く、本

当に感謝しています。先日の大学セミナーでお会いした保護者の方は、娘さんとオープンキャンパスに来た際に社会福祉学部の学びに感銘を受け、自分が福祉の現場で働くようになったと話してくださいました。そのように受け止めてくれる親御さんがいらっしゃることに感激しました。

**小松** 本学ではお子様が社会福祉学部に入学期後、自分も勉強しなくなったと通信課程に入学された親御さんもたくさんいらっしゃいます。こうしてお子様の勉強を通じて社会福祉に関心を持ってもらえたら嬉しいですね。福祉というのは専門職だけではなく、市民と支えていくもの。ぜひ保護者の皆様にも力になっていただきたいと思えます。



伝統と  
ネットワークを  
力に変えて。

Topics!

スカラシップの学生が  
高校生に魅力を伝達。

2017年8月19日(土)、福祉を学ぶ高校生と大学生が交流を深める「高校生・大学生のつとめ2017」が美浜キャンパスで開催されました。スカラシップの学生を中心に企画から運営までを担当し、当日は大学の概要や学びの内容、大学生活の様子、スカラシップ制度の魅力などを自らの経験談とともに紹介。また学びの体験として、高校生と大学生混合チームでKJ法を用いたグループワークやジェスチャーゲームに挑戦しました。真剣に議論し合う姿や笑顔が見られ、有意義な時間を過ごしました。



より多く  
社会福祉の現場に  
触れる機会を。

